ニッポンART探訪 Vol.4

ホキ美術館
千葉県

# 写真を超えたリアルな表現。写実絵画の魅力をじっくり堪能

**「まるで写真のような」と言われる写実絵画。日本で初めて写実絵画の専門美術館として生まれたホキ美術館で、その奥深い魅力に迫ります。**

日本の写実絵画界を牽引する画家・野田弘志氏が、約6年の歳月をかけて完成させた新作『神仙沼―保木将夫氏に捧ぐ―』(2021年・部分掲載、実寸は284.2×696.8cm)。昨年亡くなった初代館長が完成を心待ちにしていた作品。

2011年に「日本建築大賞」にも選ばれたユニークな建物。

## 初代館長が待ち望んだ写実絵画の大作が完成

2010年、日本初の写実絵画専門の美術館として誕生したホキ美術館。存命で活躍する日本人画家の代表作を数多く所蔵する同館に昨年11月、新たな大作が加わりました。野田弘志作、『神仙沼―保木将夫氏に捧ぐ―』。巨大な画面に向き合うと、現地でその風景の中にいるような錯覚を覚えます。

「まるで写真のような」とも言われる、写実絵画。しかし近寄ってみると、葉の一枚一枚まで精緻に描き込んだ筆の跡が見えます。沼に映る若葉と白く立ち枯れた大木の対比から、「生と死」という作者のテーマも浮かび上がってくるようで、時を忘れて見入ってしまいそうです。

作品の副題にあった「保木将夫氏」とは、当館の初代館長。実業家であり写実絵画のコレクターでもあった氏の収蔵品をもとに誕生したのが、ホキ美術館です。

静物の美しい一瞬をとらえた五味文彦作『果物と銀食器』(2020年)。

「ホキ美術館大賞特別賞」受賞をきっかけにSNS等で大きな話題を呼んだ三重野慶作『言葉にする前のそのまま』(2016年)。

鑑賞の妨げになるものが視界に入らないように設計された展示室。

フェルメールを思わせる光と影のコントラストが美しい、生島浩『5:55』(2007-2010年)

写実絵画をこよなく愛していた氏は、同館を訪れた人が「作品を鑑賞するとき妨げになるものをできるだけ除きたい」という思いを持っていました。

3層になる長い回廊を重ねたギャラリーは緩やかなカーブを描き、白い壁と絵画しか目に入らないように設計されています。ピクチャーレールやワイヤーもなく、LED照明やスピーカーもすべて天井埋込み式。床材にはゴムチップを採用し、足音を吸収するよう配慮されています。

## 深い精神性と個性が現れる写実絵画のつきせぬ魅力

時には数年という長い制作時間のかかる、写実絵画。その間に作者の思いや感情が込められることで、たとえば五味文彦の作品のように、静物を描いたとしても深い精神性や個性が表れるのは写実絵画の魅力といえるでしょう。

生島浩の『5:55』は、公民館に勤める普通の女性に「6時まで」の約束でモデルを頼んだという作品。女性の「あと5分で終わる」というほっとした気持ちと、「最後までちゃんとしなければ」と緊張する気持ちの両方が伝わってくる作品は、同館でも一番人気を誇ります。

また新たな才能の発掘と写実絵画の発展のため、40歳以下の作家を対象とした「ホキ美術館大賞」を開催。『言葉にする前のそのまま』を描いた三重野慶は、そこで特別賞を受賞した気鋭の作家。そんな新しい才能と出会えるのも、同館ならではの楽しみ方です。

常設展では人物から静物まで8つのコンセプトで展示室が分けられ、テーマを絞った企画展も開催。一日かけてゆったりと、アートに浸る時間を楽しめます。

### ホキ美術館

住所 千葉県千葉市緑区あすみが丘3-15
電話 TEL.043-205-1500
料金 一般1,830円、高校生・大学生・65歳以上1,320円
開館 10:00～17:30(最終入館17:00)
火休(祝日の場合は翌日休)
交通 JR外房線土気(とけ)駅からバス約10分。またはタクシー約7分
HP https://www.hoki-museum.jp

### お楽しみ周辺SPOT 美術館レストランと夜景自慢のポートタワー

ホキ美術館の建物1階にある「はなう」では、千葉で育まれた新鮮な食材や旬の素材を生かしたイタリアンとワインが味わえます。窓の外には、千葉市最大の自然公園「昭和の森」の景色。美術館チケットは当日の出入りが自由なので、ランチや散歩を楽しんでから館内に戻って、気になる作品をもう一度鑑賞するといった楽しみ方も。ランチ¥3,200～。帰路には、千葉市のランドマーク「千葉ポートタワー」に立ち寄ってみては？　地上113mの展望室からは2012年に「日本夜景遺産」に認定された美しい夜景が堪能できます。

イタリアンレストラン はなう

千葉ポートタワーからの夜景

問「イタリアンレストラン はなう」 TEL.043-205-1300
「千葉ポートタワー」 TEL.043-241-0125